

槇尾川ダム 意見陳述

意見陳述者

槇尾川ダムの見直しを求める連絡会の代表です。槇尾川ダム計画の凍結、見直しを求めています。第1番目の意見陳述者の方から「よそ者が」と言われたんですけど、槇尾川ダム計画には見直しを求めています、私は地元の横山が大好きです。私たちもよそ者ではありますが、どこかにふるさとがあります。

まず初めに、情報公開についてですが、ダム計画段階で府民に情報公開していただきたかったと思います。それが意見を聴くべき正当な情報公開だと思います。建設段階を過ぎてから、ダム推進の「ダム通信」を発行するのは、偏った情報であり、正しい情報公開とはいえないと思います。

ダムでは水害は防げません。流域全体での総合治水対策を考えてください。昭和57年の豪雨被害の治水対策としてダムを計画していますが、当時の被害の実態は、主に板原地区での牛滝川の氾濫による中州地帯の水害であり、仮に槇尾川ダムがあったとしても、この水害は防げませんでした。被害戸数も、当初53戸としていたのに、私たちが53戸の場所を要望したところ、再評価審議段階で、530戸、うち床上浸水2戸と訂正し、被害を誇張されました。被害実態は、農業用水路のオーバーフローがほとんどで、残りは川からの逆流等であり、槇尾川の洪水が直接の原因ではありませんでした。

時間雨量50mm対応の遅れを何十年もそのままにして、流下能力の低いところを対処してこずに、ダム、ダムと唱えてこられました。もっと適切に対処していれば、水害は防げたはずです。

現在、流下能力の低い箇所の河川改修は進められており、ダムではなく、河川改修で対処できるものです。計画降雨量の決定や、降雨パターンの設定方法など、実態から乖離した過大な設定を行っています。治水基準点である板原での基本高水流量、ダムがない場合の洪水量は750 t/sとされていますが、もともと過大な条件設定によって計算された710 t/sを、さらに40 t切り上げ、750 t/sとしたものです。

治水基準点でのダムによる洪水調節量は50 t/sとされていますが、切り上げた誤差の中に入ってしまい、妥当な設定をすれば、数字上ダムなど要らないこととなります。

また、平成 8 年に大津川水系工事実施計画の変更、「ダムなしからダムありへ」を認めています。もとの計画を情報請求しても、水文(すいもん)資料を処分したので、ないという返事で、資料がなくても基本高水等わかるものを要望しましたが、これもないということです。納得できません。もとの数字があって、変更が可能だと認識しています。

ダム予定地は小さなせせらぎの川です。小さな子どもの水遊びの場所であって、ダム予定地とはだれもが首をかしげる所です。ダムの集水面積は、槇尾川流域全体の 6% しかなく、治水効果はほとんど期待できません。溢れることを前提とした流域全体での治水対策を進め、森林や水源、ため池などの保全・活用を図ってください。

和泉市では、森林の緑地面積がかなり多くあり、水田、ため池を含め保水機能を見直し、コンクリートのダムではなく、緑のダムを育てていくべきです。そのためにお金を使う方が有効です。

河川改修費やダム建設費の上昇は計画性が欠けています。河川改修費では、この間の土地代の下落により、用地補償費が約 130 億円下がったにもかかわらず、大川橋から上流 1 km 余りの改修費として 70 億円の上積みは、途方ない大きな金額で、疑問です。

また、建設費も 97 億円から 128 億円と、農道建設費等を加えて膨らませています。後々仕事を増やしていき、コスト意識が疑われます。また、費用便益にダム撤去の費用、貴重な自然を失うマイナスの費用が含まれておらず、これらを含めると、ダムは経済的ではありません。また、現在では河川改修のみとほとんど変わらないという府の資料であり、ますますダムは経済的ではありません。

ダムをつくって、かえって土石流やダム崩落の危険性を危惧します。地元では昭和 27 年以降、深刻な水害はなく、むしろダム建設による二次災害を恐れています。地元の川のすぐ近くに住んでいる方々をお訪ねしましたが、「ダムが必要」という声を私は聞いておりません。

地元の要望である道路整備等が地方自治体の裁量で行えるよう、国の補助金、地方交付税の仕組みを変えていくべきだと思います。地元では、道路が必要だと考える方は多いようですが、ダムには懐疑的であります。本当に必要なことに、未来に活かされることにお金を使ってほしいと思います。

地元の歴史、文化、自然を保全してください。1400年前に開かれた槇尾山の貴重な文化財と施福寺、地元によって保全されてきた貴重な自然の価値を正當に評価し、後世に残せるよう考えてください。

歴史、文化、自然が大きな財産であり、地域活性化の宝だと思います。川近くの方が、川を残して、孫にカワムツなどを見せて遊ばせたいとおっしゃっていましたが、本当のお気持ちだと思います。

この5月にも、ダム予定地に、溪流に住む多くのタゴガエルの姿を見、声を聞き、卵も確認しています。カジカガエルもたくさんいます。ダムの問題と豊かな自然の様子をまとめたビデオDVDを委員の方々にお渡ししているので、見ていただいていると思います。

再評価「時のアセス」の意味は、時代に対応した評価をしていくことにあります。この間、淀川水系流域委員会では「原則ダム建設中止」の答申を出し、大阪府でも見直しが進んでいます。槇尾川ダム河川整備検討委員会で、委員長は「妥協という言葉、良い言葉ではないがそれしかない。ダムを造ること血を流すこともありうる」という言葉で締めくくられました。ぜひ今回の再評価委員会では時代の要請に応える答申をお願いしたいと思います。

ありがとうございました。